

研究用の小型EVについて学生に説明する  
竹原教授（右端）



# 高齢者用EV 研究へ始動

東広島市の近大工学部

県内企業と  
試作車製作

## 安全システム開発

東広島市の近畿大工学部は、高齢者向けの1人乗り小型電気自動車（EV）の研究に乗り出した。県内企業の協力で車両を試作し、衝突防止や安全に曲がるシステムなど運転しやすい技術を開発する。（境信重）

ロボットなどを製作するZMP（東京）から車体（全長1・9メートル）を購入した。速度計など運転席の計器類は、石井表記（福山市）が製作した五つのはがき大の液晶画面に取り換

え、見やすくした。今後左右と後方を液晶画面に映し出すカメラを取り付ける。研究は教員5人と学生が担う。ハンドルの動きを電気信号でコンピューターに伝えてタ

イヤの角度を制御し、的確に曲がるシステムを開発する。頭脳に当たるソフトウェアはFCS（福山市）が手掛ける。車両代と改造費は計約1200万円。このほか、障害物を検知して自動停止する機能の研究も検討する。早ければ本年度中に高齢者に運転してもらい、改善につなげる。「高齢化が進む中、お年寄りが通院や買い物に使う運転しやすい小型EVの需要は高まる。社会のニーズに応えたい」と竹原伸教授。将来はEV事業を進める企業にノウハウを提供したい考えた。